

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
2025年3月期第1四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時:2024年8月7日(水) 10:30~11:30

【百貨店事業】

Q.国内消費やインバウンド売上伸長による商品構成の変化も含め、足元の商況について教えてください。

A. (渡邊常務執行役員)

説明資料の通り、国内売上は前年を上回って伸長している。商品構成に関しては、高額商材の売上シェアが大きい傾向はあるが、衣料品やその他のカテゴリーも堅調に推移している。

インバウンド売上が前年比で大幅に伸長しているが、前年度の第1四半期は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行し、入国規制も緩和されて間もない時期であったことが影響している。

中国国内の景気が減退している現在も、インバウンド売上が伸長しているが、中国の富裕層が高額商材を購入する場合、為替の状況や品揃えの観点から自国内よりも日本の百貨店を選択しているのではないかと考えている。

Q. 今回の通期見通しの上方修正は第1四半期の予想上振れを上乗せしているが、第2四半期以降も現在の強いモメンタムが継続するという認識でよいのか。

A. (渡邊常務執行役員)

長期の目線で見ると大きな流れに変化はないと考えているが、前年実績のハードルが徐々に高くなるため、前年比ベースで数十パーセント増という状況が続くとは見ておらず、下期以降は微増あるいは現状維持という想定をしている。

上方修正について、第1四半期の上振れ分のみを通期予想に上乗せするという形は保守的に見えるかもしれないが、現時点においては、会社の事業運営における予算を反映した見通しとしては適切だと考えている。

Q. 売上について、予想からの上振れはインバウンドが要因だとみてよいか。また、それに伴ってインバウンドの年間売上の予想1,000億円から1,125億円へ引き上げられたという理解でよいか。

A. (渡邊常務執行役員)

インバウンド売上の修正予想値については開示していないが、概ねその理解で間違っていない。

Q. 営業利益について、インバウンド売上以外の増益要因はあるか。また、販管費が売上の伸びに対しては抑制されているように認識しているが、通期見通しで販管費の抑制によるさらなる上振れが見込めるのかも教えていただきたい。

A. (渡邊常務執行役員)

販管費について、今は国内外富裕層向けの施策推進に向けて様々な調査や取り組みを積極的に行っているため、抑制一辺倒ではないが、増加については計画の範囲内。インバウンドの売上増は、客数が増えていることが要因であり、販促費などが販管費に大きく影響を与えることはない。

【食品事業】

Q. 食品事業の粗利益率が下がっているが、第2四半期以降どのような見通しか教えていただきたい。

A. (渡邊常務執行役員)

食品事業における粗利率は、仕入れ値の店頭への価格転嫁までに必ずタイムラグがあり、四半期ごとでみるとズレが生じる場合も多い。迅速に行うべきという意見もあるが、店頭でのお客様の反応を見ながら丁寧に進める必要がある。今後も、PB 商品や価格を抑えた商品、付加価値の高い惣菜商品の開発・強化など、粗利率改善に向けた取り組みを進めていく。

一方、粗利率以外のところで、イズミヤ・阪急オアシスの人件費については、主に人員配置の面において大きな改善の余地があり、第2四半期以降修正を図る。

【商業施設事業】

Q. 第1四半期の営業利益の進捗から通期で予想より上振れするように見えるが、今後の想定を教えてください。

A. (渡邊常務執行役員)

第1四半期の進捗から営業利益の上振れ余地が大きいように見えるかもしれないが、大井開発の運営するビジネスホテルについては、稼働率が既に 90% 台後半で、客室単価もほぼ上限まで来ている。また、H2O 商業開発や阪急商業開発についても多少の上振れ余地があるものの、通期では概ね当初予想通りに推移すると見ている。

【連結全体】

Q. 第1四半期の好業績を受けて、中期経営計画の利益水準の見直しを上期や通期で見直す予定はあるか教えていただきたい。

A. (渡邊常務執行役員)

現在の商況は、長期事業構想 2030 や中期事業計画における想定範囲内であり、足元の状況に一喜一憂して中長期の利益水準の見直しをする予定はない。

以上